

## 模擬個人面接を通して

～面接指導員からのワンポイントアドバイス～

教友会では、学生支援事業の一つとして、教友会推薦の面接員による「模擬個人面接」を、教員採用二次試験前に実施しています。本年度は、七月十七・十八日の二日間行いました。

模擬個人面接終了後、各面接員から出されたアドバイスの主な内容は、次のとおりです。

○「入室から退室まで、すべて見られている」という自覚をもち、清潔感のある服装・身だしなみ・節度のある振る舞いに気を付けたい。「印象」も重要である。

○出願時に提出した資料の再確認及び想定質問への準備とともに、各質問内容には正対し、簡潔・明瞭に自分の言葉で答えたい。

○自分が受験する自治体の求める教師像や「教育振興基本計画」などの教育施策についての理解を深めるとともに、なぜその自治体を志望するのかの理由を事前に明確にしておきたい。

○教育に関する内容、教育時事、教育法規等、正確な理解をもとに回答し、追加質問にもその理解をもとにぶれのない一貫した回答をしたい。各施策のねらい

や実施上の課題など、自分の言葉で答えられるようにしたい。

○特別支援教育関係については、各校種で出題される傾向がある「インクルーシブ教育」「支援籍学習」など基本的な内容についての理解を深めたい。

○保育士志望者でも、地方公務員法の基本的な内容の理解に努めたい（公務員になる意識）。

○大学推薦者は一次試験を免除されているとはいえ、教職教養・教育関係法規等、基本的な内容の理解に努めておきたい。

◎限られた時間の中でも、教師としての適性や自分のよさ等を最大限アピールできるようにしましょう。

教友会では、教職をめざす学生への支援として、教員採用試験対策DVD『時事通信社版』教職オンライン講座』を購入し、会員（終身会員）が視聴できるようにしています。こちらでもご利用ください。

## 模擬個人面接を受けて

～実際の面接で役立ったこと等～

言語文化専修英語分野 立花 未妃

心理・教育実践学専修 納見彩美子

私が、模擬個人面接を受けて教員採用試験で役立ったことは二つあります。

一つ目は、教員採用試験の本番と同様に緊張感をもって練習できたことです。これまでも教職支援セミナーに参加したり、友人と集まったりして面接対策をしていましたが、模擬個人面接では面接官をしてくださる先生と初対面で行ったので、いつも以上に気合を入れた練習できました。また、本番と同様の身だしなみで入室から行うので、当日は安心して面接会場に向かうことができました。

二つ目は、自分の課題が明確になったことです。友人との練習では気付かなかった視点からのアドバイスをいただいたり、自分がまだ押さえられていなかった知識を確かめたりすることができました。また、質問内容を友人と共有したことで、より多くの質問への対策をすることができました。

教員採用試験は練習あるのみです。試験対策ができる場に積極的に参加して、合格に向けて頑張ってください。応援しています。

模擬個人面接では、本番のように面接練習を行うことができます。私が模擬個人面接を受けて良かったと感じたことは二つあります。

一つ目は、本番と同じような緊張感で面接ができるということです。よく知っている友達同士での面接練習ではなく、その場で初対面の人と面接をすることで、どうしたら自分の考えを相手に伝えられるかということを意識することができました。面接官によって雰囲気が変わるので、その人に合った伝え方をするのも大切です。

二つ目は、今までとは異なる視点でアドバイスをいただけたことです。面接室に入る時の出入りの際の声や、「よろしくお願ひします。」「ありがとうございます。」「の声を、はつきりと大きい声で笑顔で言う」と、印象が良くなると指導していただいたことで、本番では、そこも意識して臨むことができました。

埼玉大学では、たくさんの支援の中で、多くの仲間と勉強することができそうです。皆さんが合格できるように、応援しております。